

研究名： 尺骨遠位早期骨端閉鎖と内反肘変形の検討

1．研究の目的

尺骨遠位早期骨端閉鎖は、原因により外傷性、腫瘍性、特発性と分けられますが、いずれも尺骨遠位の成長障害を来すことで橈骨さらには上腕骨遠位の変形を来たします。上肢全体としては見かけの内反肘変形となりますが実際は上腕骨遠位は外反変形を示します。このような成長障害に伴う隣接骨の変形は、成長終了時までの観察でその問題点が判明することも多いです。長期経過例を中心に機能評価の結果を調査することで多彩な病態を呈する本疾患に対する治療法の確立を目指します。

2．研究の方法

研究対象：当センターにて尺骨遠位早期骨端閉鎖と診断され、外来診察を受けた症例

研究期間：倫理審査委員会承認後～2021年3月

研究方法：尺骨遠位早期骨端閉鎖と診断された症例について、レントゲン・術式・術後結果などを診療録の情報から調査します。

3．研究に用いる情報の種類

年齢、性別、病歴、既往歴、家族歴、病態の特徴、画像所見、手術内容、手術成績、合併症等についての診療録情報

患者さんの氏名など、本人を特定出来る一切の個人情報には調査対象ではなく、個人情報は保守されます。

4．情報の公表

調査結果は学術誌への論文投稿を行う事によって公表します。

5．研究実施機関

国立成育医療研究センター

6．お問合せ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、2020年8月10日までに下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

国立成育医療研究センター 整形外科 診療部長 高木岳彦（担当者氏名）

住所：東京都世田谷区大蔵 2-10-1 国立成育医療研究センター

電話：03-3416-0181（内7421）

研究責任者：

国立成育医療研究センター 整形外科 診療部長 高木岳彦（責任者氏名）